

JAバンク栃木における地域密着型金融の取組状況（平成 28 年度）

JAバンク栃木（栃木県下JAと農林中央金庫宇都宮支店）では、農業と地域社会に貢献するため、平成 28～30 年度JAバンク栃木中期戦略に基づき地域密着型金融の推進に取り組んでおります。

この度、平成 28 年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめましたので、ご報告いたします。

1 農山漁村等地域の活性化のための融資を始めとする支援

（JAバンク栃木の農業メインバンク機能強化への取組み）

JAバンク栃木は、地域における農業者との結び付きを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

（1）農業融資商品の適切な提供・開発

JAバンク栃木は、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

平成 29 年 3 月末時点のJAバンク栃木の農業関係資金残高^{（注1）}は 35,022 百万円（うち農業経営向け貸付金 15,176 百万円）、日本政策金融公庫等の受託貸付金^{（注2）}残高は 3,994 百万円を取り扱っています。

（注1）農業関係の貸出金とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。

（注2）JAバンク栃木が農業者の窓口となり、日本政策金融公庫などの貸付金の受託取扱いを行っています。受託貸付金残高には、JA転貸分を含みます。

【営農類型別農業資金残高】（単位：百万円）

営農類型	29年3月末現在
農業	15,176
穀作	4,915
野菜・園芸	4,836
果樹・樹園農業	1,295
工芸作物	42
養豚・肉牛・酪農	4,064
養鶏・鶏卵	23
養蚕	1
その他農業（注1）	5,107
農業関連団体等（注2）	14,739
合計	35,022

（注1）「その他農業」には、複合経営で主たる業種が明確に位置づけられない者、農業サービス業、農業所得が従となる農業者等が含まれています。

（注2）「農業関連団体等」には、JAや全農（経済連）とその子会社等が含まれています。

【資金種別別農業資金残高】 (単位：百万円)

種 類	29年3月末現在
プロパー資金 (注1)	30,520
農業制度資金 (注2)	4,502
農業近代化資金	3,152
その他制度資金 (注3)	1,350
合 計	35,022

(注1) プロパー資金とは、JAバンク原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。

(注2) 農業制度資金には、①地方公共団体が直接的または間接的に融資するもの、②地方公共団体等が利子補給等を行うことでJAバンク栃木が低利で融資するもの、③日本政策金融公庫等が融資するものがあり、ここでは①③の転貸資金と②を対象としています。

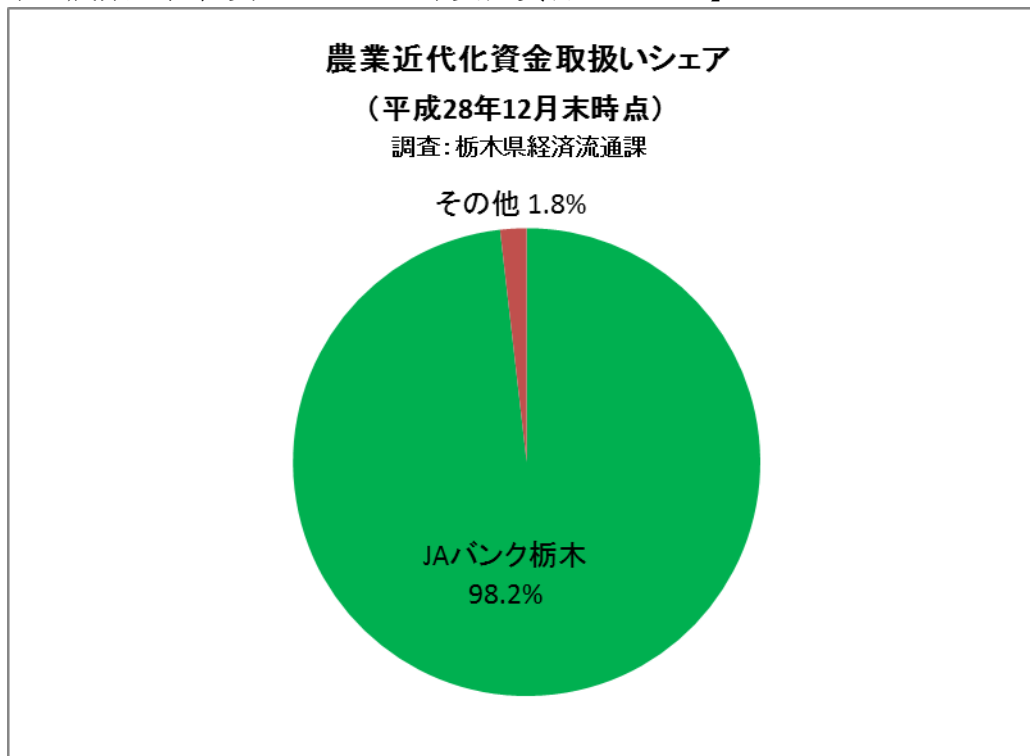
(注3) その他制度資金には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

【農業資金の受託貸付金残高】 (単位：百万円)

種 類	29年3月末現在
日本政策金融公庫資金	3,994

(注) JAバンク栃木では、主にJAを窓口として、日本政策金融公庫資金の受託貸付金を取り扱っています。

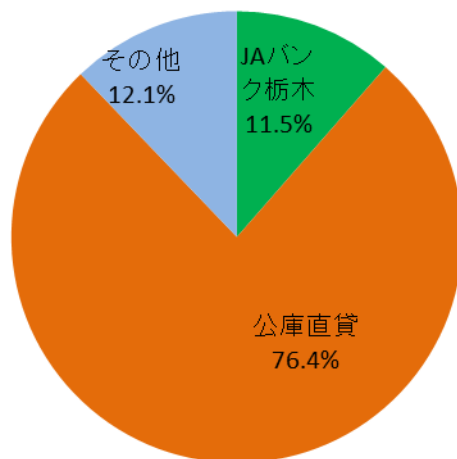
JAバンク栃木は主要な農業関係の制度資金である、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いにおいてトップシェアとなっています。

【栃木県の農業近代化資金および公庫受託貸付のシェア】


公庫農業資金取扱いシェア

(平成29年3月末時点)

出所: 日本政策公庫「業務統計年報」
農林中央金庫「農業融資残高一覧表」



(2) 担い手のニーズに応えるための体制整備

JAバンク栃木では、地域の農業者との関係を強化・振興するための体制整備に取り組んでいます。

JAでは、本・支店（本・支所）の農業融資担当者が、営農・経済担当者が農業者からお聞きした情報も含めて把握して、農業融資に関する訪問・資金提案活動を実施しています。また、県内10JAの本・支店（本・支所）には66人の「担い手金融リーダー」が設置され、支店の活動をサポートしています。

農林中央金庫宇都宮支店では、JAの活動サポート・指導機能、農業法人等への融資相談機能を担う「県域農業金融センター」を立ち上げ、これらの機能の拡充、強化に向けて取り組んでおります。

(3) JA内事業間連携の強化

JAバンク栃木では、農業者の多様なニーズにJAをあげて応えていくため、営農・経済事業等との合同会議・研修会の開催や農業者への同行訪問等により、これまで以上に、JA内事業間連携を強化しています。

【具体的取組事例】
a 第12回JAバンク栃木担い手金融リーダー会議

開催日	平成29年3月13日
主催者	農林中央金庫宇都宮支店
参加対象者	農協役職員
参加人数	96名
内容	<p>農家支援の取組強化を図ることを目的に、農業融資担当者および営農・経済渉外担当者を参集し、開催しました。会議では、JA内事業間連携による同行訪問活動の先進JAであるJAはが野、JAかみつがより事例報告を受け、事業間連携の重要性を再認識しました。また、宇都宮大学農学部の新藤潔教授より「農業ビジネスの決算数値を読み込む」と題し、決算数値の見方や紐解き方を学びました。</p>



b 第17回パワフルアグリフェア

開催日	平成28年7月23、24日
主催者	JAグループ栃木
総来場者数	県内外より6,752名
内容	パワフルアグリフェア（JAグループ栃木農業機械等統一展示会）に参画し会場内に設置した特設コーナーにおいて、農業資金等のPRおよび借入相談対応等を実施しました。


(4) 6次産業化に向けた農商工連携の推進

（一社）とちぎ農産物マーケティング協会主催の商談会を、農林中央金庫宇都宮支店が全農とちぎ、栃木県と共催し、生産者・JAと加工流通業者との橋渡しを行うなど、6次産業化に向けた農商工連携に取り組んでいます。また、商談会参加予定者の「商談力向上」に向けたセミナーを開催いたしました。

【商談会開催状況】

商談会名	第10回栃木県農産物等展示商談会
開催日	平成29年2月8日
主催者	（一社）とちぎ農産物マーケティング協会
参加団体数	125団体
参加人数	県内外より約1,800名
内容	本県産の農産物や食品の販路拡大を目的とした展示・商談会を、宇都宮市マロニエプラザにて開催し、栃木の食文化発展による地域経済の活性化に取り組みました。

【「フード・コミュニケーション・プロジェクト（FCP）セミナー」の開催】

開 催 日	平成 28 年 11 月 24 日
主 催 者	栃木県
共 催 者	J Aバンク栃木、(一社)とちぎ農産物マーケティング協会、 (一社)栃木県食品産業協会、フードバレーとちぎ推進協議会
参 加 人 数	46 名
内 容	公益社団法人流通経済研究所 農業・地域振興研究開発室長の折笠俊輔氏より「販路開拓のための商談対策」と題して、商談における成功率向上の肝として、効果的な商品紹介シート（FCPシート）の作成方法や提案型営業のやり方、事前準備の重要性等をご説明いただくとともにデモンストレーションも実施しました。また、折笠氏には希望者が持参したFCPシートの個別添削も行っていただきました。



2 担い手の経営のライフサイクルに応じた支援

JAバンク栃木は、担い手をサポートするため、ライフサイクルに応じて、次の取組みを行っています。

(1) 新規就農者の支援

JAバンク栃木では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、以前より就農支援資金（現：公庫資金「青年等就農資金」）を取り扱っています。また、平成28年7月よりJAバンク栃木としても新規就農者の様々な資金ニーズに対応すべく「JA新規就農応援資金」を創設いたしました。

加えて、平成28年4月より設立された「JA栃木中央会JAグループ栃木担い手サポートセンター」や、日本政策金融公庫宇都宮支店、栃木県と連携し新規就農者向けセミナーを開催し、各種情報提供に加え、新規就農者同士・関係機関とのネットワークづくりを行っています。

【新規就農者をサポートする資金の残高実績】

(単位:件、百万円)

	平成29年3月末 残高
青年等就農資金	44
就農支援資金	481
JA新規就農応援資金	14
合計	539

【平成28年度新規就農者応援セミナーの開催】

開 催 日	平成28年7月20日
主 催 者	JAバンク栃木、JAグループ栃木担い手サポートセンター、株式会社日本政策金融公庫宇都宮支店
参 加 人 数	68名
内 容	<p>栃木県（各農業振興事務所）も協力のもと、県内で新規就農を資金面・制度面で支える機関・団体が集結し、県内各地から新規就農者ならびに新規就農者を志す研修生ら計80人程度が参加しセミナーを開催いたしました。</p> <p>講演では（有）ぶどうばたけ取締役である三森かおり氏より「未来の農業者に～地方の宝をもう一度再認識しよう～」と題し、人脈づくりの重要性と何事にも意欲的に取り組むことの大切さをお話しいただきました。その後、各関係団体より新規就農者向け支援事業や制度資金の説明を実施しました。</p> <p>JAバンク栃木としても、同月より創設した「JA新規就農応援資金」や新規就農応援事業、インターネットを活用した経営相談機能「アグリウェブ」について情報提供いたしました。</p>

(2) 経営不振農家の経営改善支援

JAバンク栃木では、負債整理資金の対応にあたり、関係機関と協議するなど、農業者の経営再建に向けて取り組んでいます。

【28年度の農業者の経営改善支援等の取組み実績】

(単位:先数)

期初経営改善支援取組先 A		Aのうち再生計画を策定した先数 a	Aのうち期末に債務者区分がランクアップした先数 b	Aのうち期末に債務者区分が変化しなかった先数 c	再生計画策定率 = a / A	ランクアップ率 = b / A
正常先①		59		54	0.0%	
要注意先	うちその他要注意先②	39	2	6	5.1%	15.4%
	うち要管理先③	2	0	1	0.0%	50.0%
破綻懸念先④		43	23	0	53.5%	0.0%
実質破綻先⑤		17	2	1	11.8%	5.9%
破綻先⑥		0	0	0	0.0%	0.0%
小計(②～⑥の計)		101	27	8	26.7%	7.9%
合計		160	27	8	16.9%	5.0%

(注) 期初経営改善支援取組先および債務者区分は平成28年2月末時点でのものです。

(3) 災害被災者への支援

JAバンク栃木では、自然災害の被災者を支援するため、災害対策窓口を設置したほか、災害対策資金の創設や個別融資先の経営状況に応じて償還条件の緩和等に対応しました。

(単位:件、百万円)

取組事例	JA名	内容	件数	貸付実行金額
平成28年1月降雪被害資金	JAうつのみや	平成28年1月の降雪により、農作物及び農業施設等に被害を受けた農業者に対し、農業経営災害資金貸出基準により災害復旧に関する資金の貸付を目的とした資金。	2	4
平成27年9月大雨災害資金	JAかみつが	豪雨により被害を受けた管内農業者に対して、農業経営に必要な資金、生活維持に必要な資金を対応。(連合会・JAで利子補給を行い、無利子、さらに保証料をJAで負担)。	2	5
平成27年9月大雨災害資金	JAおやま	平成27年9月の豪雨により被害を受けた管内農業者に対して農業経営に必要な資金、生活維持に必要な資金を融資し農業経営の安定を図る。	16	23
平成26年2月、平成28年1月降雪被害および平成27年9月大雨災害資金	JAしおのや	平成26年2月及び平成28年1月の降雪災害、平成27年9月の大雨災害の被害を受けた組合員に対して低利なプロパー資金を制定し被災者への対応を実施。	21	41
平成27年9月大雨災害資金	JAなすの	平成27年9月の台風18号の大雨により被害を受けた組合員の経営・生活の安定を図ることを目的に災害資金貸出要項へ災害資金貸出基準(平成27年9月大雨災害対策資金)を追加。	1	5
合計			42	78

(4) JAバンク栃木講演会・セミナー等の開催

JAバンク栃木および栃木県農業法人協会主催により、農業法人経営者や系統団体等を招いたセミナーを開催し、異業種間の情報交流を促進しています。

【具体的取組事例】

セミナー名	平成28年度 栃木県農業経営セミナー
開催日	平成29年1月18日
主催者	JAバンク栃木、栃木県農業法人協会
参加対象者	農業法人経営者、農協役職員、行政、関係団体等
参加人数	106名
内容	<p>◆第一部</p> <p>①「一般社団法人日本食農連携機構について」 講師 一般社団法人日本食農連携機構 事務局長 水谷伸司氏</p> <p>②「農業活性化への挑戦！『みずほ』の取組」 講師 株式会社みずほ 代表取締役社長 一般社団法人日本食農連携機構 副理事長 長谷川久夫氏</p> <p>◆第二部 「ワインセミナー これであなただもワイン通！」 講師 キリンビール株式会社 広域法人支社 部長 石川透氏</p> <p>◆第三部 交流会</p>



3 経営の将来性を見極める融資手法を始め、担い手に適した資金供給手法の提供

JAバンク栃木では、農業者の債務償還負担を軽減し、経営再建を支援するため、負債整理資金を取り扱っています。

【平成28年度 負債整理資金の貸出実績】 (単位:件,百万円)

資金名	平成28年度 実行件数	平成28年度 実行金額	平成29年3月末 残高
農業負担軽減支援資金(注1)	0	0	0
畜産特別資金(注2)	0	0	85
その他資金(注3)	5	19	343
合計	5	19	428

(注1) 農業経営負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、JAなどの融資機関において取り扱っています。

(注2) 畜産特別資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換資金であり、JAなどの融資機関において取り扱っています。

(注3) その他資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換のためのJAプロパー資金の総計です。

4 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

JAバンク栃木では、地域の子どもたちに農業への理解を促進するため、JAバンク食農教育応援事業を展開し、農業に関する教材「農業とわたしたちの暮らし」の配布や農業体験の受入れ等に取り組んでいます。

教材「農業とわたしたちの暮らし」は、JAバンクを通じて、県下の小学校 373 校へ 21,440 冊配布され、授業等において活用されています。

また、各JAでは、下表のような食農教育などの実践活動に取り組んでいます。

【JAバンク食農教育応援事業による活動内容】

JA名	活動名	活動内容
JAうつのみや	農業体験教室 (アグリスクール)	小学生を対象に、野菜の収穫体験や稲刈りの農業体験を通じ、農業の理解・関心を深める取り組みを行いました。
JAかみつが	農業体験学習	小学生を対象に、学校農園で農作物づくりの農業体験や稲刈りを通じ、農業の理解・関心を深める取り組みを行いました。
JAはが野	農業体験教室 (未来ちゃんクラブ)	小学生を対象に、JA管内(真岡・二宮・益子・茂木・市貝・芳賀)ごとに、それぞれの地域の特色を持った農業体験を行いました。
JAしもつけ	農業体験学習	小学生を対象に、田植え・稲刈りの農業体験や、梨の収穫体験を通じ、農業の理解・関心を深める取り組みを行いました。
JAおやま	農業体験学習	小学生を対象に、管内産の食材を使った親子クッキングを実施し、農業や食料への関心を深める取り組みを行いました。
JA佐野	農業体験教室 (あぐりスクール「夢」)	小学生を対象に、田植え、野菜の定植・収穫体験や地元の野菜を使った料理教室を通じて、農業への関心を高める取り組みを行いました。
JA足利	農業体験教室 (あぐりキッズクラブ)	小・中学生を対象に、味噌作りや収穫した米や野菜を使用した調理体験を通じて食農教育活動を行いました。
JAしおのや	農業体験学習	園児・小学生を対象に、サツマイモの定植・収穫やバケツの稲づくりの農業体験を通じ、農業の理解・関心を深める取り組みを行いました。
JAなすの	農業体験教室 (なっちゃんクラブ)	小学生を対象に、農作物(大根、そば等)の種まきから収穫、調理して食べるまでの農業体験や調理実習を行いました。
JAなす南	児童作品展覧会	園児・小中学生を対象に、食育に関する学習・体験を実施しました。また、地産地消の取り組みとして「とちぎ和牛」の学校給食への提供を行いました。

以上